

ISOマネジメントシステム 認証制度の活用の実態調査と その活性化に向けて

2020年3月18日

JABマネジメントシステム研究会 WG1

©2020 JAB

1

WG1メンバー



- 主査：
 - 金子 雅明
- メンバー：
 - 山田 秀, 河野 直, 小島 康,
小山 義正, 古谷 由紀子

- **1. 本WGの目的と実施概要**
 - 本WGの目的
 - 昨年度と本年度の実施概要
- **2. MS認証制度の活用実態調査**
 - 調査対象と質問事項
 - 調査結果
- **3. 消費者(大学生)のISO認識度・イメージ調査**
 - 調査対象
 - 調査結果
- **4. 「能力証明」としての活用方法の調査と整理**
 - 地方自治体・政府での活用、他の認証制度の調査
- **5. MS認証制度の活用の活性化のために何をすべきか**
 - 有用そうな活用方法に焦点を当てて、具体的に何をすべきかの整理を試みる

1. 本WGの目的と実施概要

MS認証制度の活用の活性化に向けて

- **ISO 9001 & 14001の認証制度が、社会でどのように活用されているか、その実態は？**
- **更なる活性化を目指すには、誰がどのようにしたらよいか？**

昨年度の実施内容（ISO 9001を対象）

- **(1)MS認証制度の活用実態調査**
 - 目的:提供組織における活用の場面とその活用方法
 - 対象:ISO 9001認証企業
 - 調査内容:認証意図と効果のギャップ、外部への公表、供給者選定時の活用など
- **(2)保険・融資の実施状況調査**
 - 目的:事業支援(保険・融資)の実施状況の把握
 - 対象:融資(銀行)1社、保険28社のHP、パンフレット
 - 調査内容:保険・融資における優遇処置の有無について
- **(3)学生へのISO 9001意識調査**
 - 目的:ISO 9001に対する消費者・社会の意識の把握
 - 対象:大学生(A大学186名、B大学102名、合計288名)
 - 調査内容:ISO 9001の認知度合い、抱く印象等について

- **(1)MS認証制度の活用実態調査**
 - 目的:提供組織における活用の場面とその活用方法
 - 対象:ISO 14001認証企業
 - 調査内容:認証意図と効果のギャップ、外部への公表、供給者選定時の活用など
- **(2)地方自治体・政府等で活用実態調査**
 - 目的:各自治体・政府でどのように活用されているか
 - 対象:各自治体への訪問調査、他の認証制度の調査
 - 調査内容:具体的な活用方法とその活用状況について
- **(3)学生へのISO 14001意識調査**
 - 目的:ISO 14001に対する消費者・社会の意識の把握
 - 対象:大学生(A大学91名、B大学120名、合計211名)
 - 調査内容:ISO 14001認知度合い、抱く印象等について

2. MS認証制度の活用実態調査

	ISO 9001(2018年度)	ISO 14001(2019年度)
①	製造業200名程度	製造業(100名程度) &建設業(100名程度)
②	<input type="checkbox"/> 品質保証部 <input type="checkbox"/> 品質管理部 <input type="checkbox"/> ISO 9001認証事務局 <input type="checkbox"/> その他 ※その他と回答した人は除外	<input type="checkbox"/> 全社または部門のEMS(ISO 14001)担当 <input type="checkbox"/> 全社または部門のEMS(ISO 14001)内部監査員 ※その他と回答した人は除外
③	ISO 9001の認証経過年数 ※0年と回答した人は除外	ISO 14001の認証経過年数 ※0年と回答した人は除外

主な質問内容について

- MS認証制度活用の意図と効果
 - 認証取得の意図
 - 認証取得の効果
 - 効果が実感できない理由
- 認証取得の外部への伝達
 - 外部伝達での活用方法
 - 外部伝達の効果
 - 効果が実感できない理由
- 購買・調達でのMS認証の活用
 - 供給者の選定での活用
 - 供給者選定で活用しない理由
 - 購買品の受入・定期的な評価での活用
 - 業務委託での活用
- 認証取得で得られるメリット、その他

※ISO 9001とISO 14001で選択肢等の
多少の違いあり

回答形式（例）

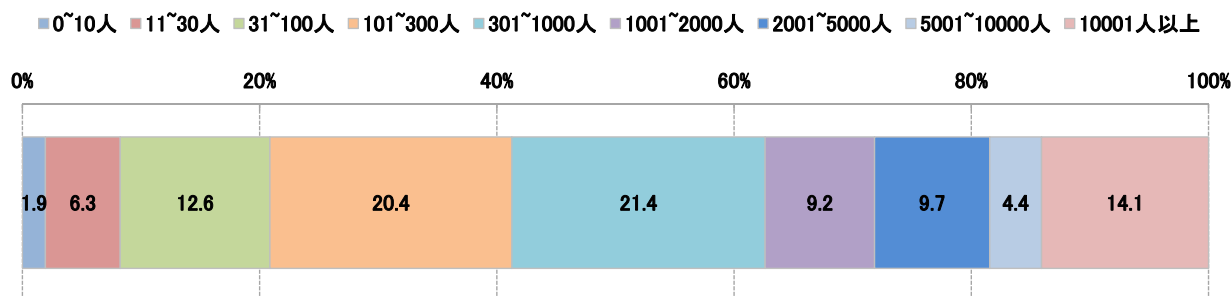


Q1.	あなたが主に所属する企業のISO 14001の認証取得または認証継続の意図について、下記1から8について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。	非常に当てはまる	当てはまる	どちらでもない	当てはまらない	全く当てはまらない
1	顧客または発注者に対し、自社が法令遵守を徹底していることを示すため					
2	顧客または発注者に対し、定められた手順に沿って事業（または業務）を実施していることを示すため					
3	顧客または発注者に対し、第三者から自社のマネジメントシステムの審査を受けているという透明性を示すため					
・	・					
・	・					
・	・					
8	行政の入札資格や業界の作業資格の取得にあたり、ISO 14001の取得が条件等となっていたり、評価で加点となっていたりするため					

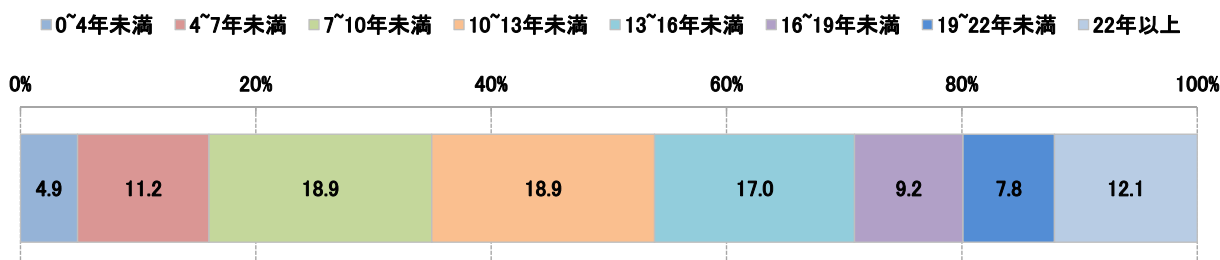
実際に調査できた対象者層



[Q]あなたが主に所属する企業の従業員数はどの程度ですか。下記1から9について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。(n=206)



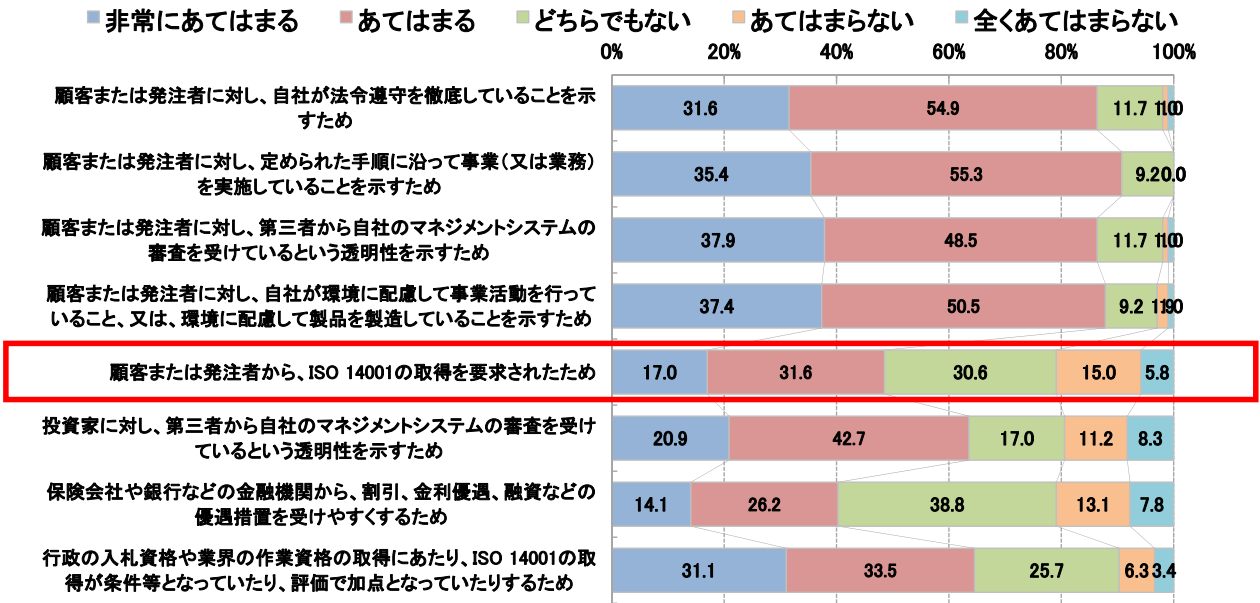
[Q]あなたが主に所属する企業のISO 14001認証取得年数はどの程度ですか。下記1から8について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。(n=206)



Q1. 認証取得/継続の意図



[Q1]あなたが主に所属する企業のISO 14001の認証取得または認証継続の意図について、下記1から8について、それぞれ最もあてはまるもの一つをお選びください。

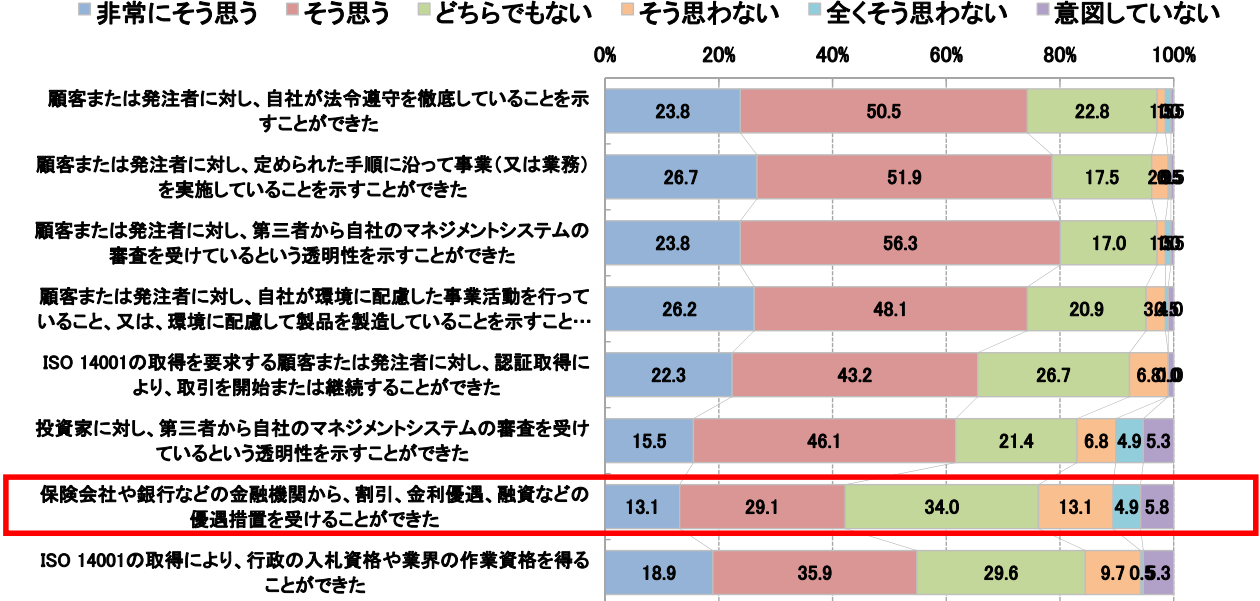


顧客または発注者からの要求を挙げたのは48.6%と半分以下と予想よりも少なく、むしろ、法令遵守の徹底を外部に訴求する等、自主的な取り組みを意図している人が約8-9割と多い。

Q2. 認証取得/継続の意図に対する効果



[Q2]Q1の意図に対して、あなたが主に所属する企業の効果はどのように考えていますか。下記1から8について、それぞれ最もあてはまるもの一つをお選びください。

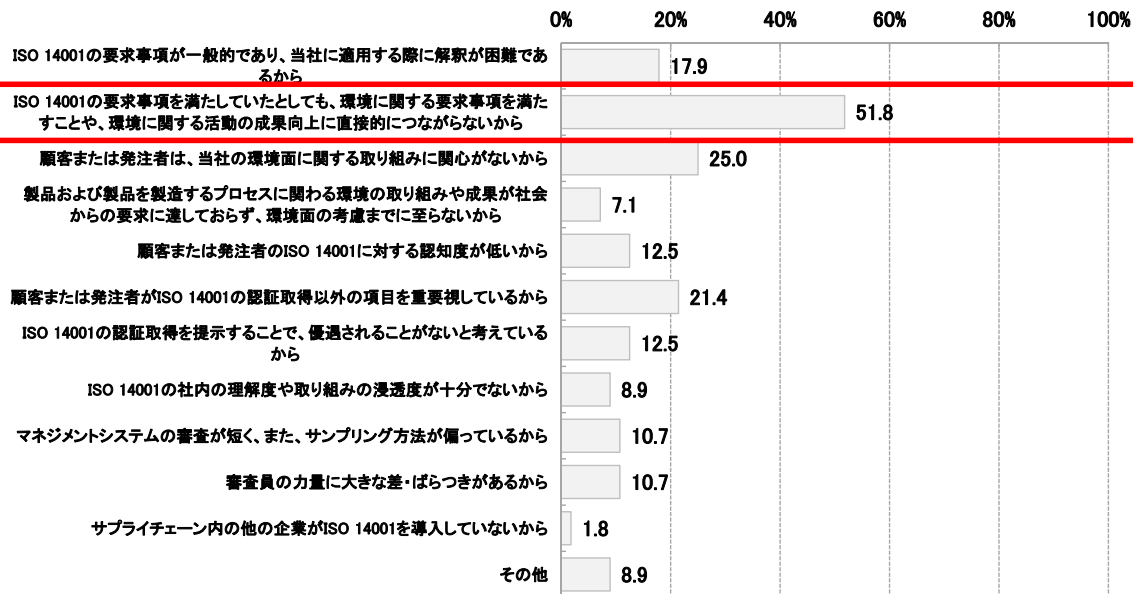


全体的に、Q1の意図の結果と対応している。なお、金融機関からの優遇の結果を実感している企業は42.2%と少なく、金融機関からの優遇を上手く活用できていない企業が多いことが予想される。

Q3. 効果を実感できない理由



[Q3]Q1の意図に対して、効果を実感できない理由は何であると考えますか。あてはまるものすべてにチェックを入れてください。(いくつでも)(n=56)

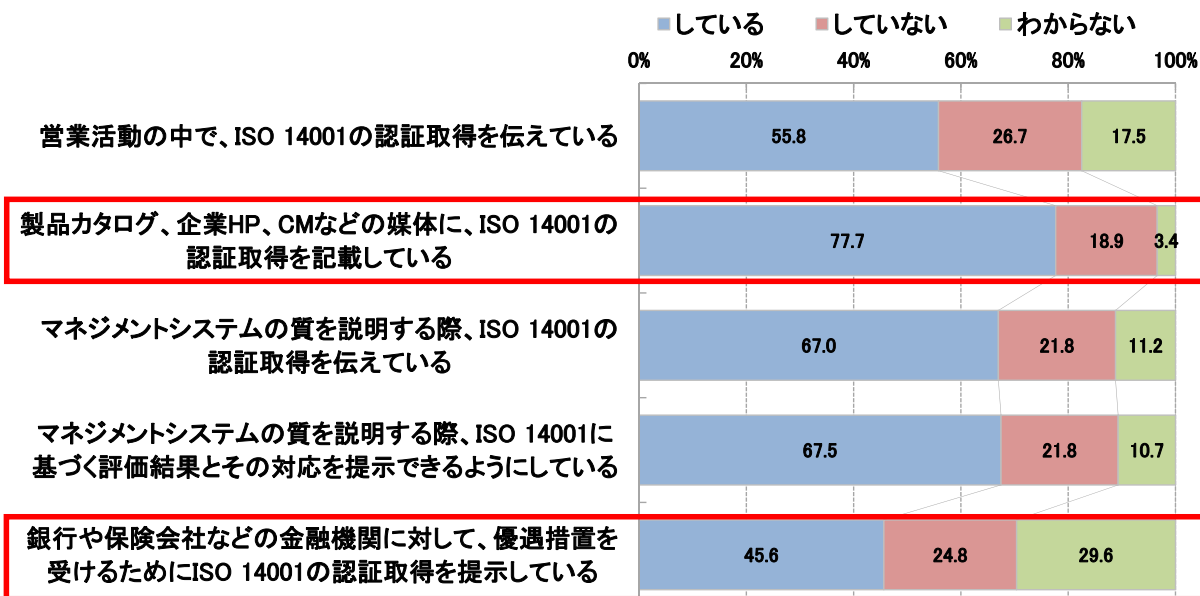


効果を実感できないと回答者した半数(51.8%)の方は、ISO 14001が環境パフォーマンスの向上に直接つながらないと回答している。活動の形骸化、取り組み方の問題とも考えられる。

Q4. 外部への伝達方法



[Q4]あなたが主に所属する企業では、ISO 14001の認証取得をどのように外部に伝えていきますか。下記1から5について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。



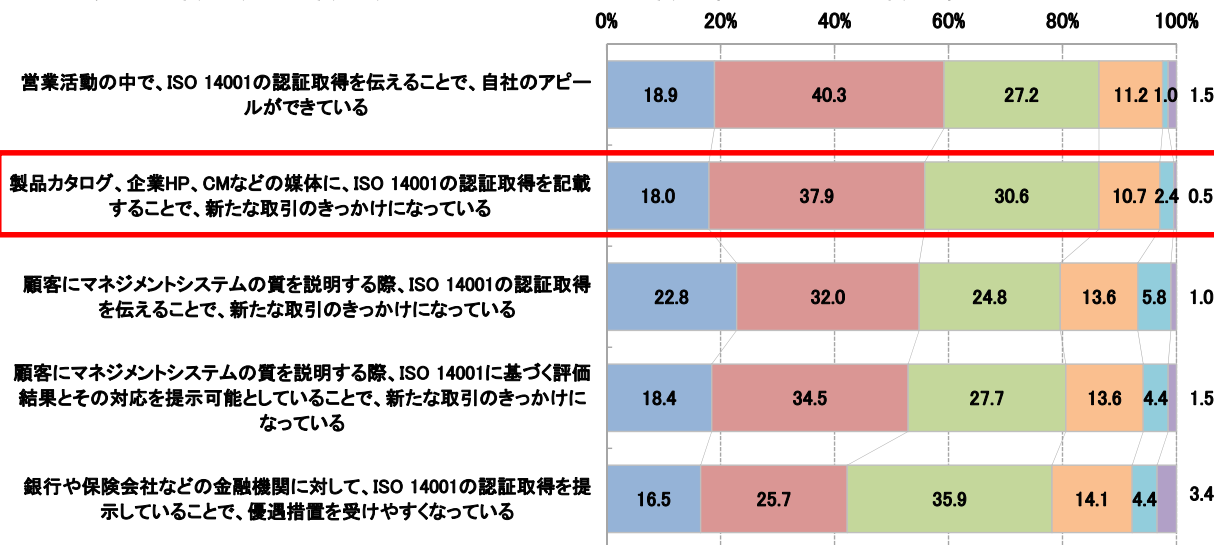
様々な媒体に認証取得を記載している企業は77.7%と多いが、金融機関に対するアピールをしているのが45.6%と、他と比べて低い。

Q5. 外部への伝達の効果



[Q5]外部への情報公開に対して、あなたが主に所属する企業ではそれぞれの効果をどのように考えていますか。下記1から5について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ していない



製品カタログ、企業HP、CMなどの媒体への記載による訴求の効果を実感できている企業は、全体の55.9%、Q4で記載していると回答した企業の中では71.9%を超えているため、このような媒体への記載は効果があると実感している。

©2020 JAB

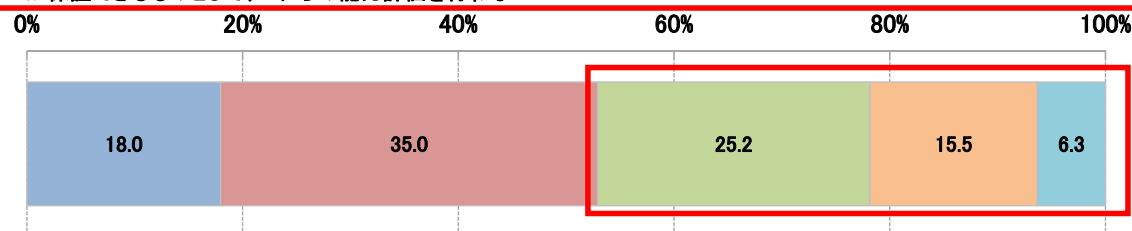
17

Q7. 供給者に対する活用（全体的に）



[Q7]あなたが主に所属する企業に材料、部品等を供給する企業（以下、供給者）の候補を探索する、あるいは決定する際、ISO 14001の認証取得の有無をどの程度考慮していますか。全体的な考慮状況について、最もあてはまるものを一つお選びください。（n=206）

- ISO 14001の認証取得の有無は全く考慮していない
- ISO 14001の認証を取得しているかどうかを確認はしているが、原則的に別の方法で環境に関わるリスクや環境マネジメントシステムの能力評価を実施している
- ISO 14001の認証を取得している場合には、環境に関わるリスクや環境マネジメントシステムの能力評価について、一部分の評価項目を省略する、あるいは、総合点に加点している
- ISO 14001の認証を取得している場合には、環境に関わるリスクや環境マネジメントシステムの能力評価について、半分以上の評価項目を省略する、あるいは、総合点に大幅に加点している
- ISO 14001の認証を取得している場合には、原則として、環境に関わるリスクの管理や環境マネジメントシステムの能力が保証できるものとして、これらの能力評価を行わない



認証取得により、一部または半分以上の評価項目を省略する企業は47.0%であり、その内環境に関わる評価項目の全てを省略する企業も6.3%存在する。

©2020 JAB

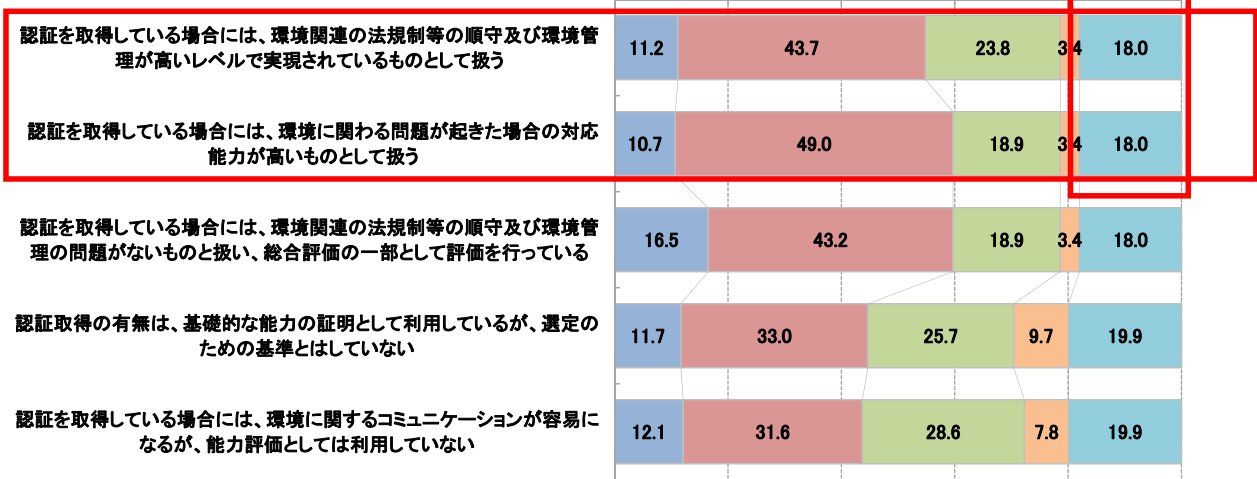
18

Q8. 供給者に対する活用（具体的に）



[Q8]供給者の候補を探索する、あるいは決定する際、ISO 14001の認証取得の有無をどの程度考慮していますか。具体的な考慮状況について、下記1から5について、それぞれ最もあてはまるもの一つお選びください。

■ 非常にあてはまる ■ あてはまる ■ どちらでもない ■ あてはまらない ■ 全くあてはまらない
0% 20% 40% 60% 80% 100%



認証取得により、「コンプライアンス」や「対応能力」が高いものとみなす企業は半数以上であるが、まったく活用しない企業も18.0%ほど存在する。

©2020 JAB

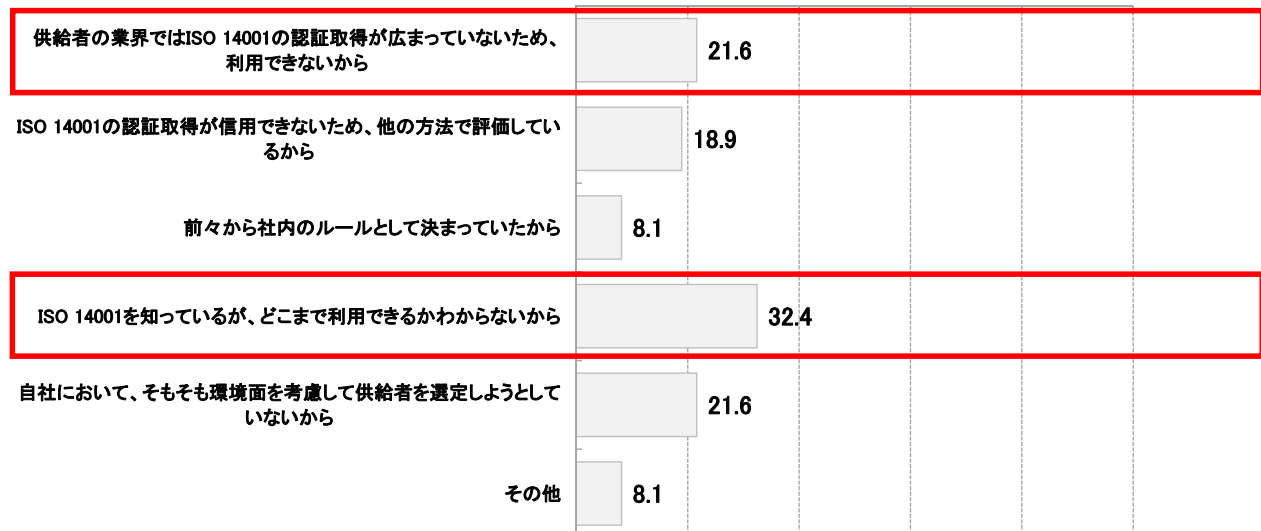
19

Q9. 供給者に対する活用をしない理由



[Q9]あなたが主に所属する企業で供給者のISO 14001の認証取得の有無を利用しない理由にあてはまるものすべてにチェックを入れてください。(いくつでも)(n=37)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



ISO 14001の活用方法やその効果の可能性を知らない方が10名程度(32.4%)いるので効果が出る活用ガイドが必要。また、SDGsやESG等により、今後ISO 14001の認証取得が広まる可能性もあるかもしれない。

©2020 JAB

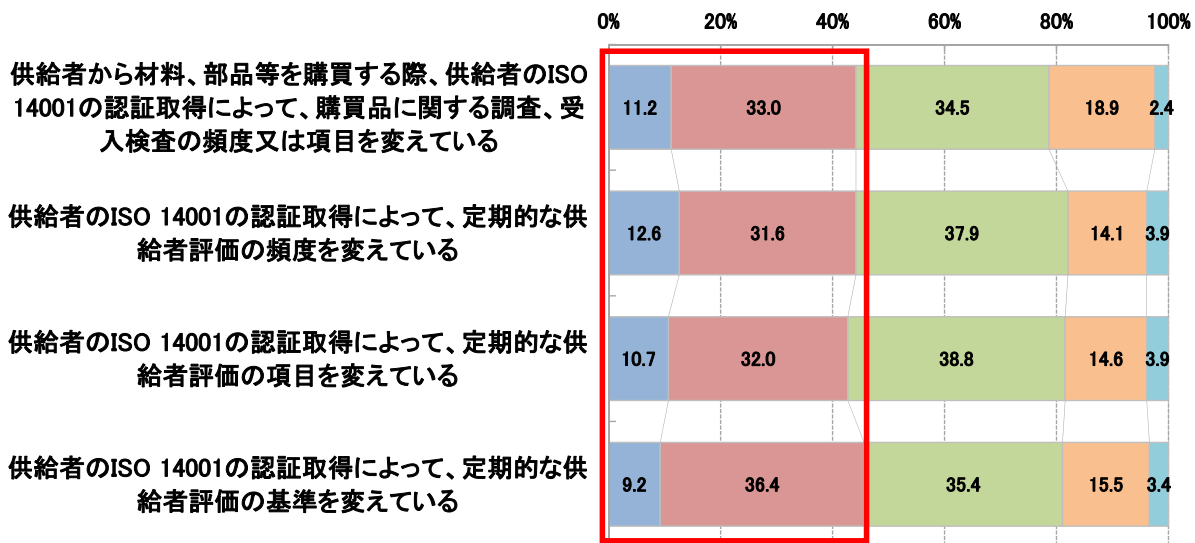
20

Q10. 供給者の評価での活用



[Q10]供給者決定後の材料、部品等の受け入れや、定期的な供給者評価について、下記1から4について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。

■ 非常にしている ■ している ■ どちらでもない ■ していない ■ 全くしていない



定期的な供給者評価としてのMS認証制度の活用は4割以上が行っている。「どちらでもない」の中にはわからないから回答できない方も含まれるため、実態はもっと活用されていると推測できる。

©2020 JAB

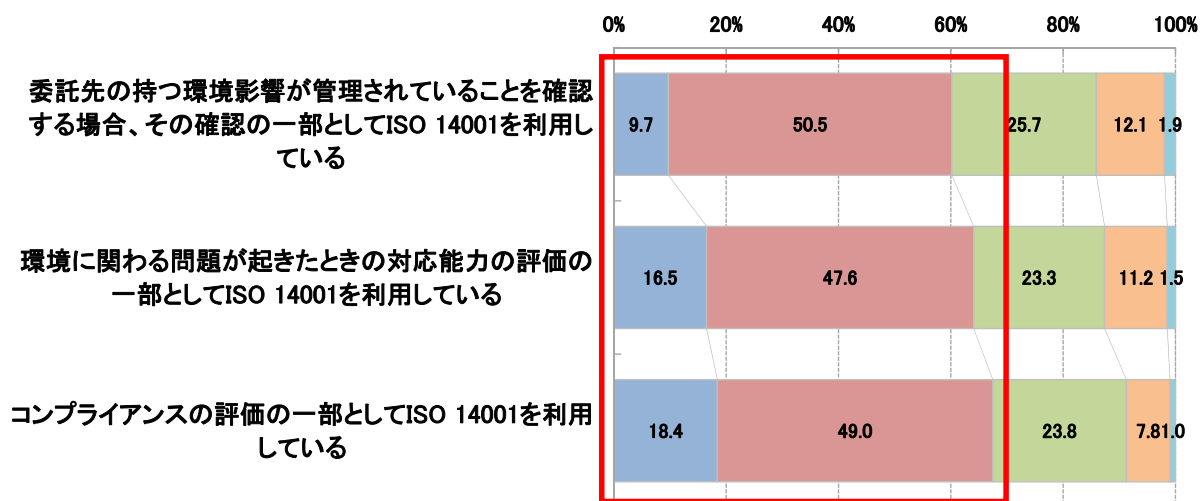
21

Q11. 外部委託での活用



[Q11]あなたが主に所属する企業が行う(一部の)業務を外部に委託する企業(以下、アウトソース先企業)を選定する際、そのアウトソース先企業のISO 14001の認証取得をどのように利用していますか。下記1から3について、それぞれ最もあてはまるものを一つお選びください。

■ 非常にしている ■ している ■ どちらでもない ■ していない ■ 全くしていない



外部委託先選定時に認証取得を環境管理の確認やコンプライアンス評価として用いているのが6割以上と、非常に高い値となっている。

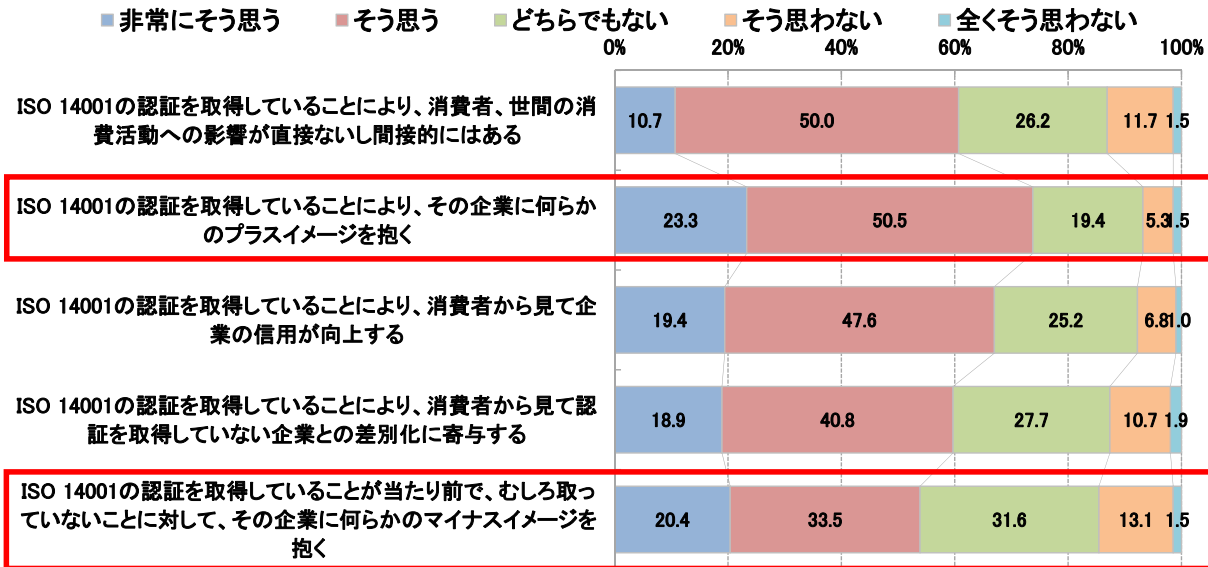
©2020 JAB

22

Q.12 認証取得によるメリット



[Q12]あなたが主に所属する企業及び一般的なISO 14001に対するイメージについてお答えください。通常、ISO 14001の認証を取得することによって得られるメリットについて、下記1から5について、それぞれ最もあてはまるものをお選びください。



認証取得によりプラスイメージを持つ企業は73.8%であり、大半の企業はポジティブな印象を抱いていることがわかる。また、取得していないことにマイナスイメージを持つ企業は53.9%となっており、認証取得が当たり前となってきている。

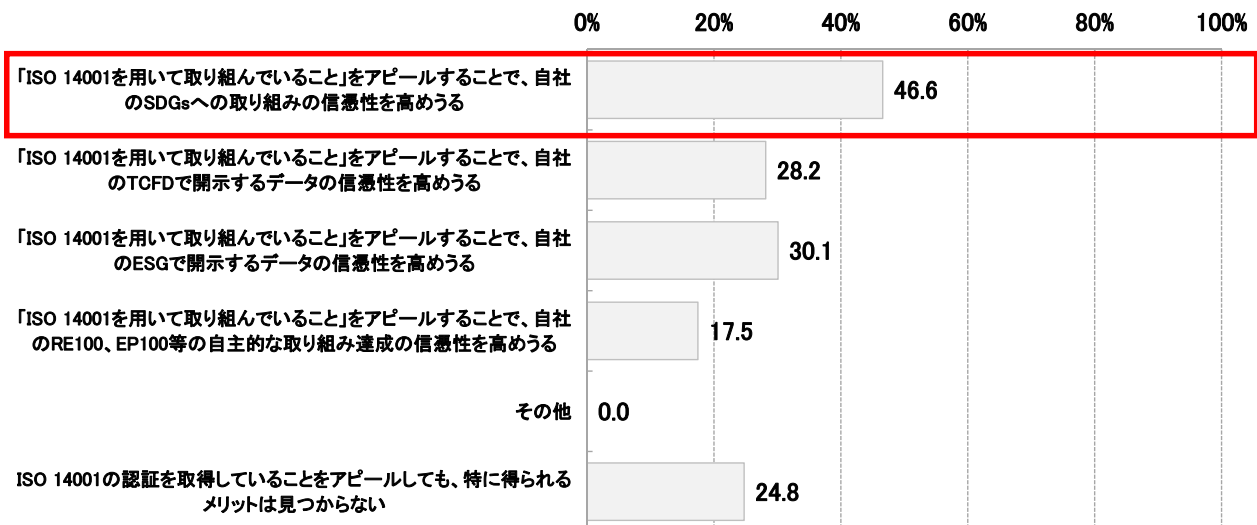
©2020 JAB

23

Q.13 ISO 14001認証取得のアピール



[Q13]近年の社会において「ISO 14001を活用して取り組むこと」をアピールすることによって得られるあなたが主に所属する企業のメリットについて、あてはまるものすべてにチェックを入れてください。(いくつかも)(n=206)



「ISO 14001を用いてSDGsに取り組むこと」に対して、ポジティブな印象を抱いている企業は46.6%と約半数にもなり、今後大きな可能性を秘めている。

©2020 JAB

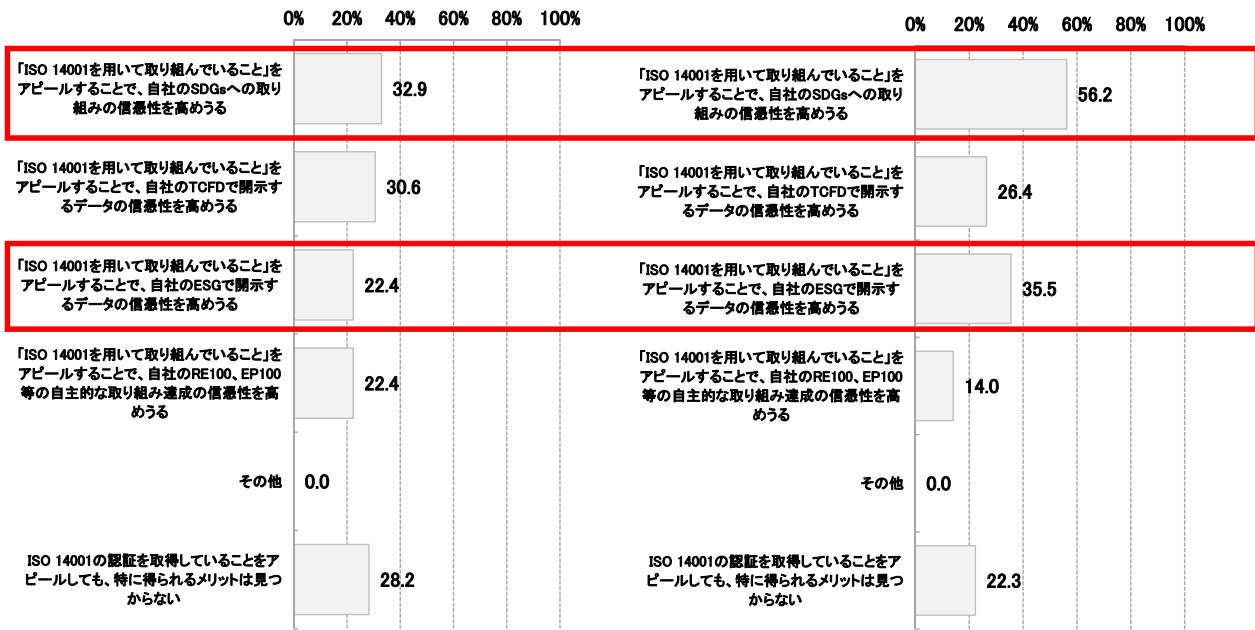
24

中小企業と大企業の比較（認証取得アピール）



中小企業

大企業



ISO 14001とSDGsとの関係性に対しては、中小企業と大企業の間では23.3%の差が見られた。ESGについても多少なりとも差異が見受けられる。

©2020 JAB

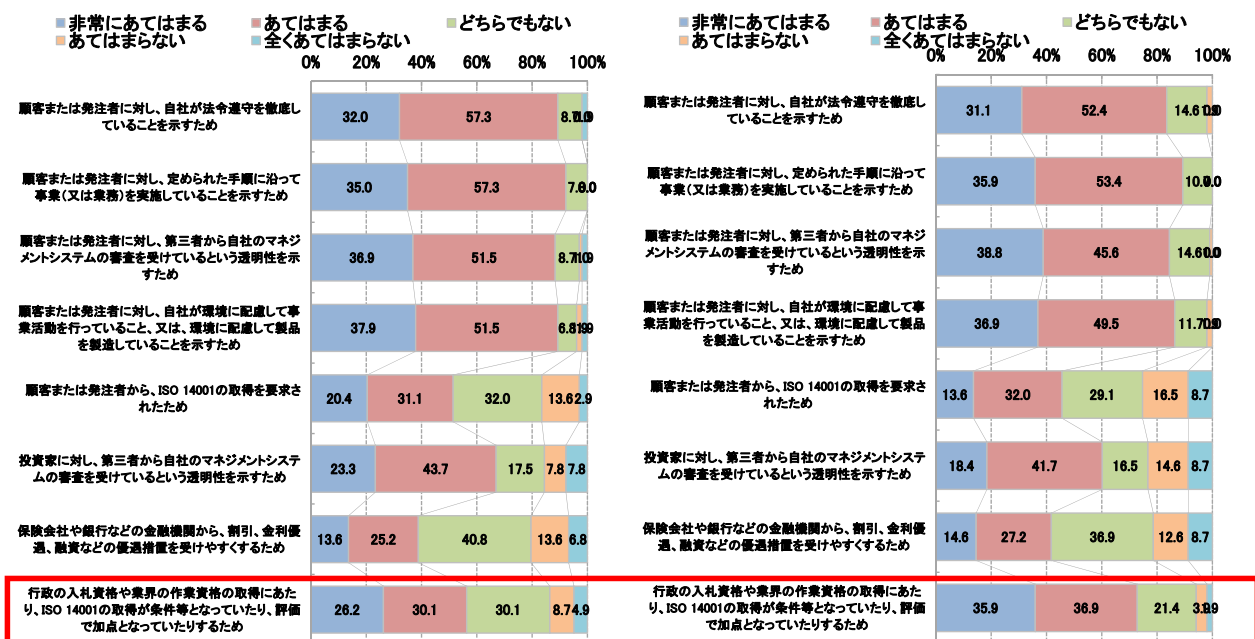
25

製造業と建設業の比較（取得／継続の意図）



製造業

建設業



建設業の方が、認証取得/継続に対し、行政の入札資格や業界の作業資格の取得を意図している企業が約15%多い。建設業法をはじめ、建設に関して行政や業界からの環境要求が大きいといえる。

©2020 JAB

26

製造業と建設業の比較（外部への伝達）

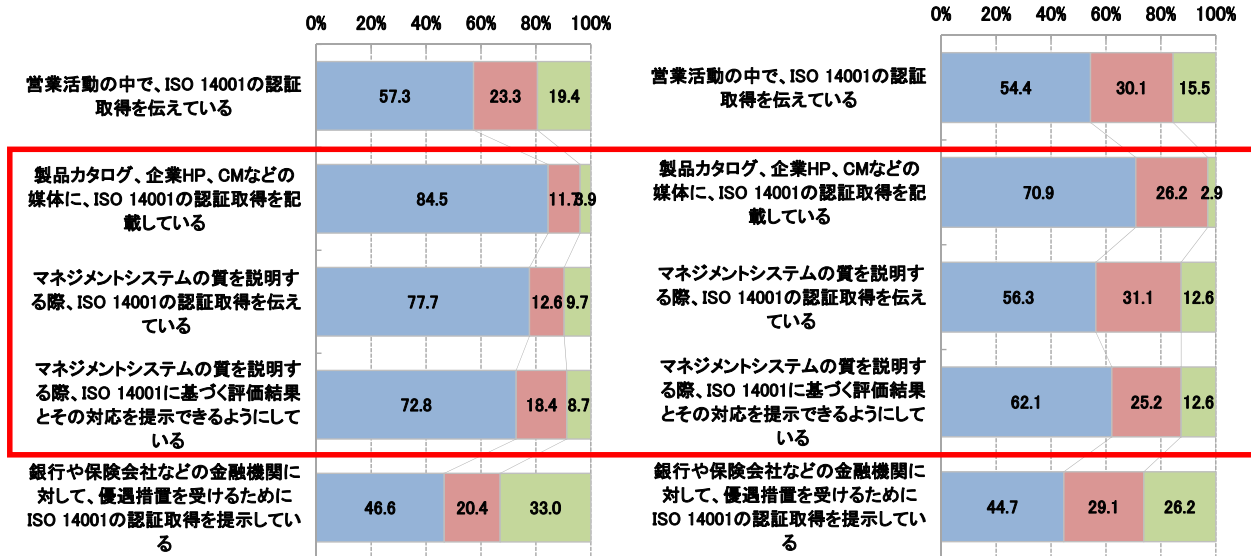


製造業

建設業

■している ■していない ■わからない

■している ■していない ■わからない



建設業ではISO 14001は当たり前であり、顧客や社会に対するアピールポイントとされていないが、SDGsやESG等の流れを踏まえると、アピールできる部分が増える可能性は大いにあり得る。

©2020 JAB

27



3.消費者(大学生)のISO認識度・イメージ調査

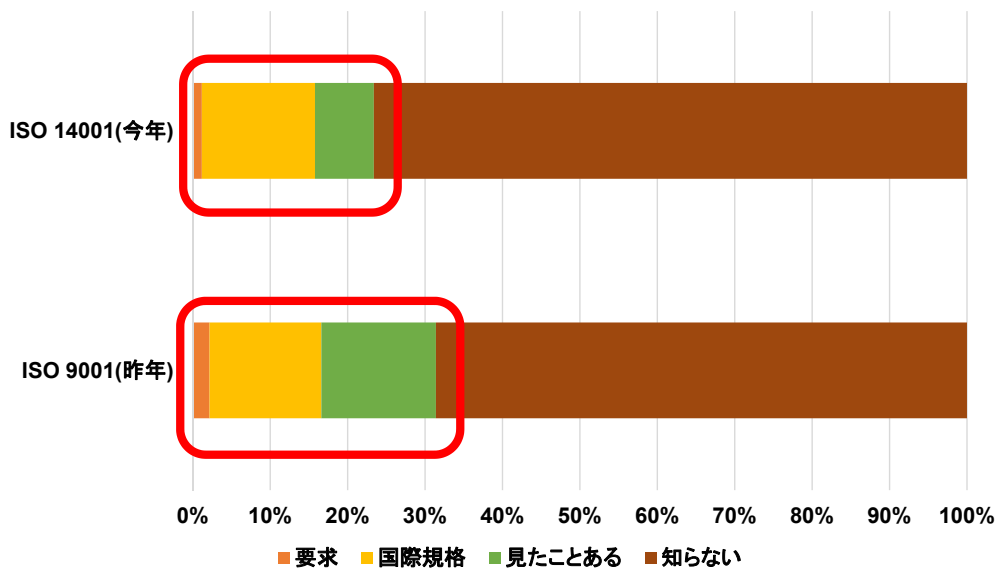
©2020 JAB

28

	ISO 9001(2018年度)	ISO 14001(2019年度)
実施日	12月11日 12月18日	11月5日 11月12日
対象	全体:289人 (A大学:186人) (B大学:103人)	全体:211人 (A大学:91人) (B大学:120人)
回収率	回収数:289 回収率:100%(=289/289*100) 有効回収数:277 有効回収率:98%(=277/289*100)	回収数:171 回収率:81%(=171/211*100) 有効回収数:171 有効回収率:100%(=171/171*100)

ISOの認知度

[Q1]あなたはISO 14001(9001)をどのくらい知っていますか？当てはまるものを1つ選んでください。

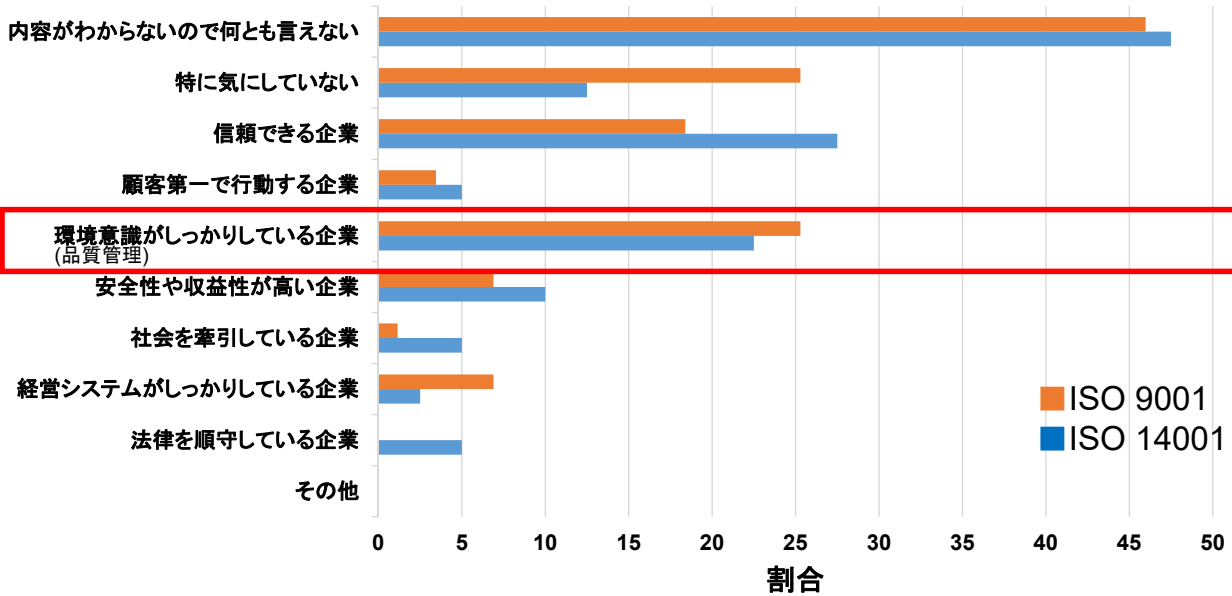


ISO 14001の認知度は約25%であり、ISO 9001よりも低い。これはISO 14001の認証取得組織数がISO 9001の約半分しかないことが影響しているものと予想される。

ISO認証企業に抱く印象



[Q2]ISO 14001(9001)の認証を持つ企業に抱く印象は以下のどれですか？直感で当てはまるものを全て選んでください。(ISO 14001(9001)を聞いたことがある人を母数として)



環境意識(品質管理)がしっかりしている企業という印象は共通。全体的に、環境のほうが品質よりも気になっているようにも見える。

©2020 JAB

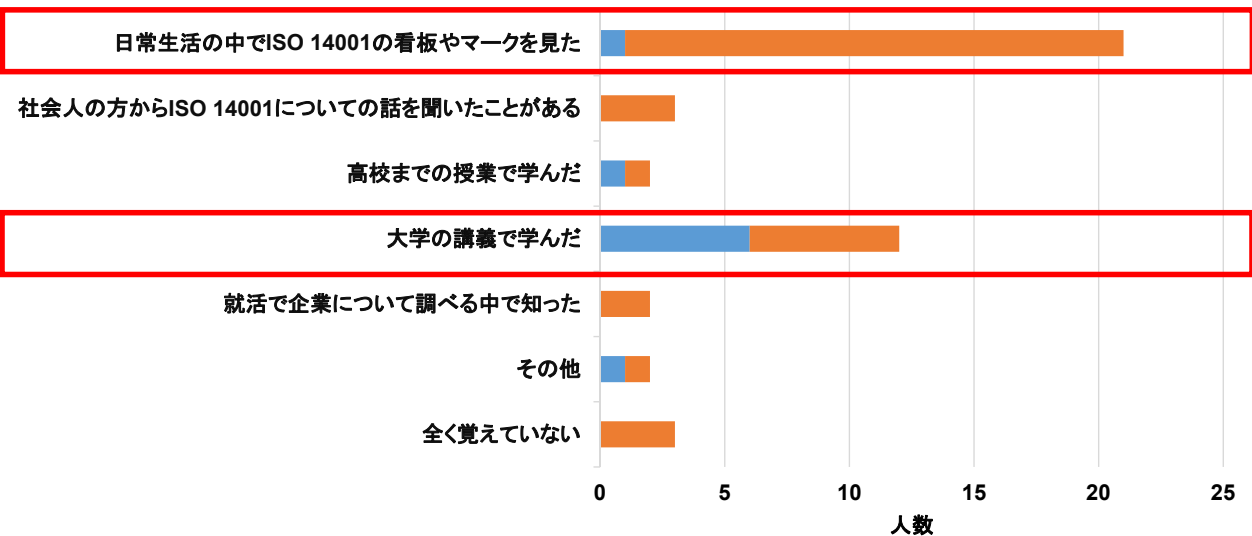
31

どこで知ったか



[Q3]ISO 14001をどこで知りましたか？当てはまるものを全て選んでください。

■ 内容を知っている人 ■ 内容を知らない人



ISO 14001を日常で見た人が多いが、内容まで分かっている人は「大学の講義で学んだ」のがほとんどである。最近の傾向として、データサイエンスとともに、国際標準に関わる授業も多くなってきているように思われる。

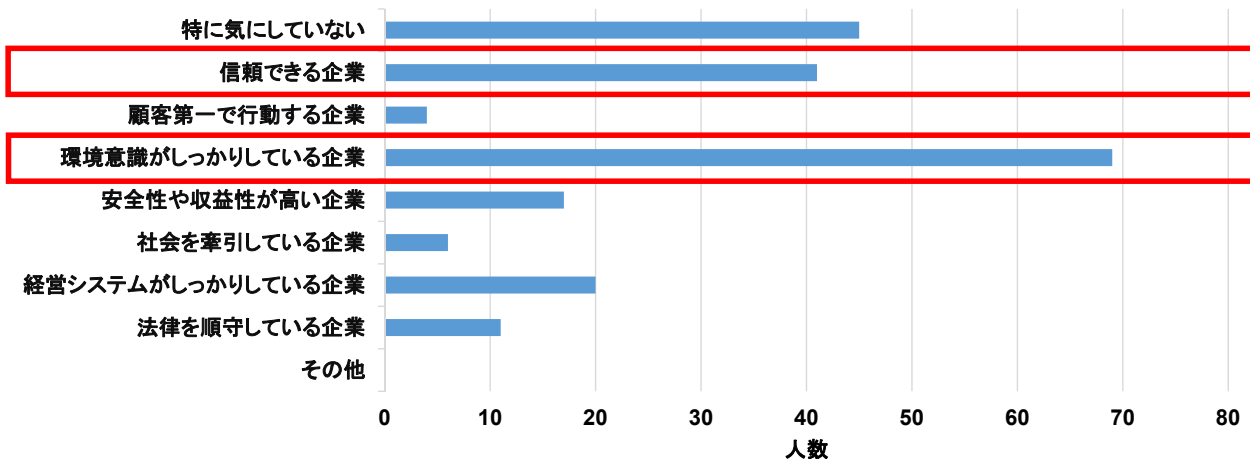
©2020 JAB

32

認知度向上による予測効果 (ISO 14001のみ)



[Q4]ISOとは国際規格のことを指しています。また、一部のISOは国際的に認められた認証機関による第三者認証制度を持ちます。ISO 14001は環境マネジメントシステムの規格であり、具体的に言えば「ISO 14001の認証を取得している組織」とは、「環境への取り組みを適切に行える力を持つことを、第三者組織によって証明された組織」であるといえます。上記の説明を踏まえ、ISO 14001の認証を持つ企業へ抱く印象は以下のどれですか？直感で当てはまるものを全て選んでください。(n=131)



もしISO 14001の内容を全員が知っていた場合、ISO 14001の認証を取得する企業に対し、「環境意識がしっかりしている企業」、「信頼できる企業」という印象を強く抱いている。つまり、認知度が向上すれば、ISO 14001の認証取得を消費者に訴求する価値はありと予想される。

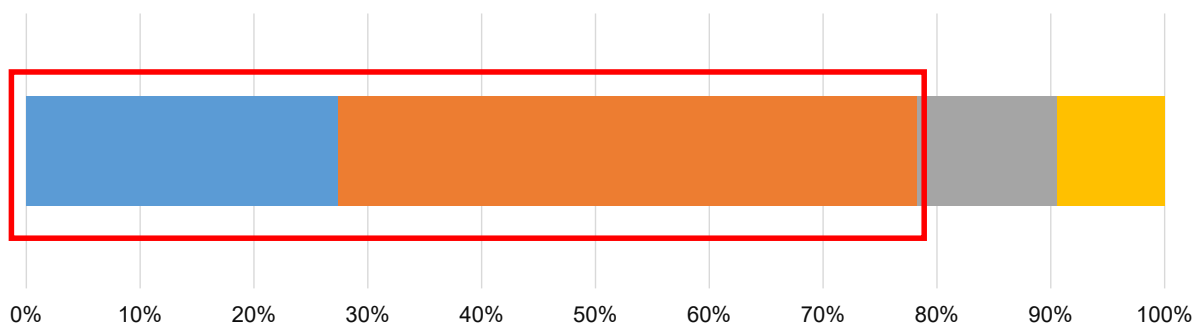
3

認証企業に抱くイメージ向上の程度



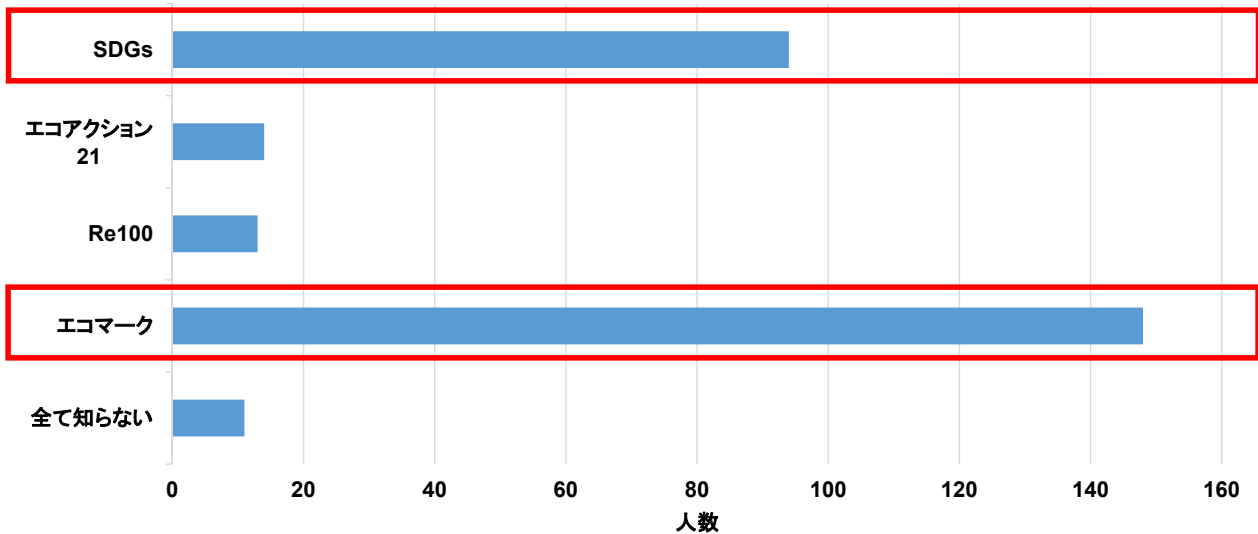
[Q5]「環境に配慮している企業」であれば、あなたのその企業に対するイメージはどの程度向上しますか？当てはまるものを1つ選んでください。(n=171)

- 企業のイメージが大きく向上する
- 企業のイメージが少し向上する
- 環境に配慮することは当然であり、企業のイメージはほとんど向上しない
- 環境に配慮すること自体、それほど興味がないため、企業のイメージには全く影響しない



環境に配慮することが当然であると考えている学生は2割程度で、残りの8割の学生は環境に配慮する企業へ好印象を抱くように思われる。

[Q6]以下の環境に関する用語は耳にしたことがありますか？当てはまるものを全て選んでください。なお、全て当てはまらない場合は「全て知らない」を選んでください。(n=171)



学生においてSDGsやエコマークの認知度が高いが、これらに共通する点として、小学校から高校までの学校教育の中に取り入れられている点が挙げられる。ISO 14001に普段から携わらない人の認知度を向上させるには、教育に取り入れるのが1つの解決策といえる。

4. 「能力証明」としての活用方法の調査と整理

- 1. 地方自治体への調査
 - 調査対象
 - 神奈川県川崎市:2019年8月17日に訪問
 - 神奈川県相模原市:2019年9月にメールでのアンケート
 - 群馬県太田市:2019年11月22日に訪問
 - 調査内容
 - ISO認証取得・維持の支援、各種補助金・事業展開支援制度でのISOの活用状況など

- 2. 他の認証制度の調査
 - 森林認証制度に関する文献調査

MS認証制度の活用方法の整理

活用する組織	活用を受ける組織	活用の方法	具体的な方法
銀行	組織	融資	融資条件(優遇)
			金利優遇
保険会社	組織	保険加入	保険加入条件(優遇)
			保険料割引
政府／ 地方自治体	組織	入札	入札条件(優遇)
			入札価格割引
		補助金	認証取得支援金
			認証継続支援金
			事業展開支援金の条件(優遇)
			技術開発支援金の条件(優遇)
		その他支援金の条件(優遇)	
		減税	減税措置条件(優遇)
		広報	HPでの紹介
			メディアでの紹介
コンサルティング	有名人を入れた紹介		
	企業経営コンサルティングの条件(優遇)		
消費者	教育	社会科、総合(自由課題での活用)	

・神奈川県川崎市におけるISO認証取得及び継続支援

ISO内部監査員養成講座

令和2年 4月23日(木曜日)・24日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年 5月14日(木曜日)・15日(金曜日)	ISO14001	受付中
令和2年 6月18日(木曜日)・19日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年 7月30日(木曜日)・31日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年 8月27日(木曜日)・28日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年 9月10日(木曜日)・11日(金曜日)	ISO14001	受付中
令和2年10月15日(木曜日)・16日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年11月19日(木曜日)・20日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和2年12月10日(木曜日)・11日(金曜日)	ISO14001	受付中
令和3年 2月18日(木曜日)・19日(金曜日)	ISO9001	受付中
令和3年 3月11日(木曜日)・12日(金曜日)	ISO14001	受付中

ISO 9001のカリキュラム

〔第1日目〕 9:00-17:00

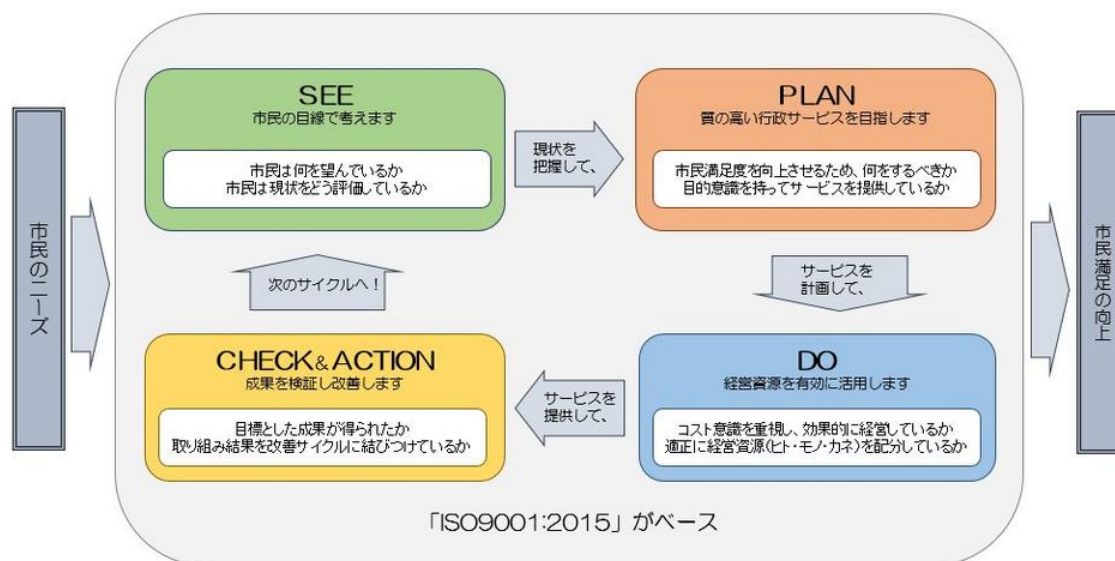
- ・ISO 9001の要点
- ・ISO 9001規格の要求事項の理解
- ・内部監査の要点
- ・グループ演習・不適合摘出・グループ検討結果の発表と解説

〔第2日目〕 9:00-17:00

- ・内部監査の要点
- ・ロールプレイによる模擬内部監査・事前検討
- ・グループ演習・模擬内部監査の実施・不適合報告書の作成
- ・ロールプレイの講評
- ・理解度テスト、まとめ

具体的な活用事例その2

・群馬県太田市におけるISO 9001の取り組み：「太田市マネジメントシステム」



出典：<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-004kikaku-gyoukei/management/management-sys.html>

- 太田市教育委員会と市内45校(小学校26校、中学校17校、特別支援学校1校、市立太田高校)が平成18年度からISO 14001認証取得活動を展開
- 教職員および児童生徒に対して、環境問題についての教育活動を継続的に実施



・登録事業者: 太田市教育委員会 群馬県太田市粕川町520番地

・登録活動範囲: 太田市教育委員会で実施する一般事務及び教育指導事務並びに太田市立小中特別支援、市立太田高等学校で実施する教育活動

・関連事業所:[活動範囲:教育活動] 45校

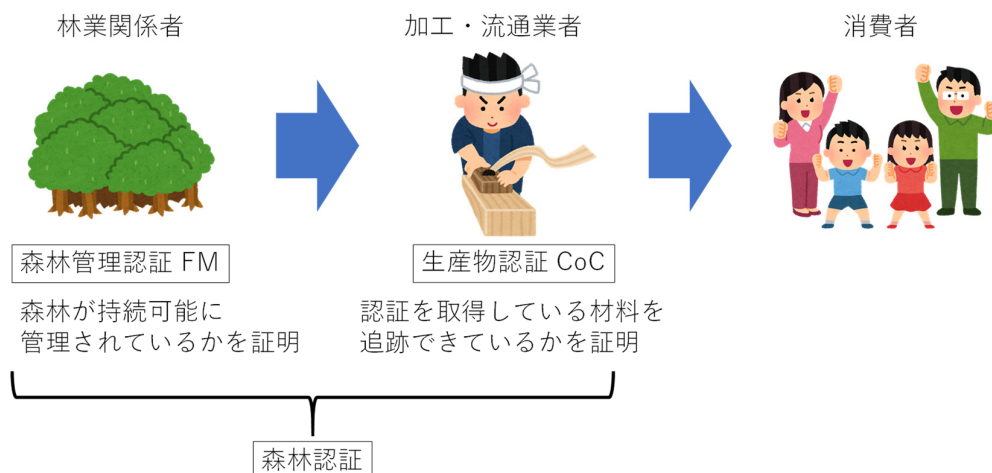
出典: https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-003kyoiku-sidou/files/H30_ISO_2018.pdf

©2020 JAB

41

森林認証とは

- 木材が、持続可能に管理された森林から伐採されたものであることを証明する仕組みである。
- 製品が消費者に届くまで、原材料の認証情報(出処など)を追跡できる。
- 森林認証制度には、林業関係者のための『森林管理認証 FM』と、加工・流通業者のための『生産物認証 CoC』がある。



©2020 JAB

42

【 JAB認定をはじめとした、IAFメンバーによる認定制度を活用している認証制度】

- PEFC森林認証 (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes) :
→各国の森林認証制度を相互認証していく認証プログラム
- SGEC森林認証 (Sustainable Green Ecosystem Council: 緑の循環認証会議)
→日本の森林を対象とした制度 (PEFCと相互認証)

【その他の認証制度】

- FSC森林認証 (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会)

2010年時点での認証実績
SGEC : 804,389ha (3.2%)



2019年時点での認証実績
SGEC : 2,020,890ha (8.1%)

認証拡大 (=活性化) に向けた取り組み

- (農林水産省の外局である) 林野庁による「森林認証材普及促進ガイド」の作成
 - https://www.rinya.maff.go.jp/j/seibi/ninsyou/attach/pdf/con_2-1.pdf
- 2017年10月11日(水)のFSC総会で「持続可能な開発目標 (SDGs) とFSC®認証に関するバンクーバー宣言」を発表
 - SDGsの14の目標と40項目のターゲットに貢献
- 国際的な競技イベントの持続可能性調達基準 (木材・紙) に採用されている
 - 「持続可能性に配慮した木材の調達基準」
 - その他、農・畜・水産物の認証制度についても調達条件の対象に。

5. MS認証制度の活用の活性化のために何をすべきか

MS 認証制度の社会活用の活性化に向けて①



- **組織**におけるISO取り組みの質向上
 - ISO担当者が経営者にISOの意義を説明し、納得させるために活用できる資料の準備
 - 成果(環境パフォーマンス, 製品品質の向上や事業目的そのものへの貢献)に結びつく活用ガイドの制作とその普及
 - 組織への活動実態調査でのポジティブな結果がその根拠。箇条4項についての活用方法がとりわけ重要と考える
 - 審査のやり方を工夫することで、各組織の取り組みを良い方向へ誘導
- **自治体・政府**への積極的な働きかけ
 - MS認証を受けた組織の製品・サービスを購買することによって受容できるメリット, 価値の訴求
 - 政策・施策の企画, 評価におけるMS認証活用のメリットの訴求と, その後のフォローアップ体制の充実

• 消費者・社会の認知度向上

- 小学校から大学に至るまでの教育機関でのISO教育の導入とその促進
 - 文科省や各地方自治体の教育委員会への働きかけが必要
- (4コマ漫画や動画等を用いて)MS認証制度の効果と意義を分かり易く説明した、コンパクトな資料やテキストの作成

• ISO規格・認証制度が貢献でき得る価値の拡大

- 近年話題となっているESGやSDGs等へ貢献でき得ることについて、主に組織、金融機関に対してアピール
 - SDGs等へのアピールは乗り遅れてしまった感があるので、時代を先読みして新しい規格にアプローチしていく必要がある
- 近年、認証数が大きく伸びている製品規格に連動させ、その能力を実現する手段としてのMS認証の活用

ご清聴ありがとうございました。